

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	文化人類学A		
英文授業科目名	Cultural Anthropology A		
開講年度	2006年度	開講年次	1、2年次
開講学期	1、3学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	南里 浩子		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>文化人類学は、人文社会科学の1つとして、人類文化の基礎を学ぶ学問である。人類は、他の動物とは違い、地球上のあらゆる環境に生きている。それは、種としての形質を変えることで環境に適応するよりも、食料生産技術の発達とそれに見合う社会・文化を築くことで環境に適応し、あるいは環境そのものを変えて進化・発展してきたからである。そういった人類社会のあり方を、技術・生産的な側面（生態人類学）と交換・経済的な側面（経済人類学）から見ていく。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
とくになし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
とくになし

<b>【教科書等】</b>
<p>参考書：綾部恒雄・田中真砂子「文化人類学と人間」（三五館）</p> <p>山下晋司・船曳建夫「文化人類学のキーワード」（有斐閣双書）</p> <p>小田亮「構造人類学のフィールド」（世界思想社）</p>

【授業内容とその進め方】

文化人類学Aでは、種として人間と環境の係わり方を土台にして、サルからヒトへの出発点から始め、技術・経済の側面から生業様式を中心にして、採集狩猟民、牧畜民、農耕民、都市民といった生活者の社会や文化を理解し、さらに経済人類学の「交換」について理解する。

第1回 文化人類学とフィールドワーク

第2回 人類の誕生—サルからヒトへ

第3回 人間と自然—生態人類学の視点

第4回 採集狩猟民の生活—ブッシュマン

第5回 牧畜民の生活1—草原のモンゴル

第6回 牧畜民の生活2—砂漠のベドウィン

第7回 農耕民の生活1—農耕の起源と農耕文化

第8回 農耕民の生活2—インドネシアの農民

第9回 都市民の生活—伝統ムスリム都市

第10回 交換の様式—社会統合のかたち

第11回 社会のまとめ役—調停者と統率者

第12回 近代国民国家はどこへ

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

主として学期末テスト(論述式)で評価する。出席状況も参考にする。

【オフィスアワー：授業相談】

授業後、相談に応じる。

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

<b>【学生へのメッセージ】</b>
教科書がないので、授業をよく聴いて理解すること。分からなければ質問すること。

<b>【その他】</b>